

J u n i o r E c o - C l u b

令和5年度 活動報告書

こどもエコクラブ

目次

- ・こどもエコクラブの会員になろう! ……1
- ・全国フェスティバル2023報告 ……9
- ・県内こどもエコクラブの仲間たち ……2
- ・2024壁新聞コンクール応募作品…10
- ・各クラブの仲間たちの活動報告 ……3~7
- ・2024 絵日記コンクール応募作品…11
- ・こどもエコクラブ全国事務局 HP 掲載…8
- ・全国フェスティバル 2024 出場…12

茨城県



こどもエコクラブの会員になろう！



こどもエコクラブとは

- ❖ 幼児（3歳）から高校生まで、だれでも参加できる環境活動のクラブです。
- ❖ 登録料・年会費ともに無料、年間いつでも登録できます。
- ❖ 自分たちが興味のある環境活動に、自由に取り組みます。
- ❖ 環境省が後援、全面的にバックアップしています。
- ❖ 本事業は、平成7年から環境省が実施していた「こどもエコクラブ」事業を、公益財団法人日本環境協会が引き継ぎ実施しているものです。



活動支援のしくみ

- ❖ サポーター：子どもたちの活動を支援・指導、全国事務局や地域事務局との連絡係を担っていただきます。
- ❖ 地域事務局：都道府県や市町村にこどもエコクラブ窓口を設置している地方自治体（主に環境部局）です。登録の促進をはじめ、クラブへの情報提供や地域の交流会等の開催など、地域の中で活動が活性化するための支援を担っています。
- ❖ 企業・団体：子どもたちの環境活動を、寄附・物品やプログラム提供等様々な形で支援いただいています。
- ❖ 全国事務局：各ステークホルダーをつなぎ、事業の運営、広報、交流の場の提供を行っています。



こどもエコクラブに入ると、こんなイイコト！

①登録無料です！

賠償責任保険が自動的に付保します。

全国事務局にて加入、クラブには保険料負担無です。

②メンバーの証「メンバーズバッジ」がもらえます！

幼児には、ぬり絵でたのしくエコ活動に取り組めるエコカードも届きます。

③環境に関する情報が定期的にメールで届きます！

活動に役立つイベント情報などが入手できます。

④活動を報告すると、環境に詳しい専門家からエールメッセージが届きます！

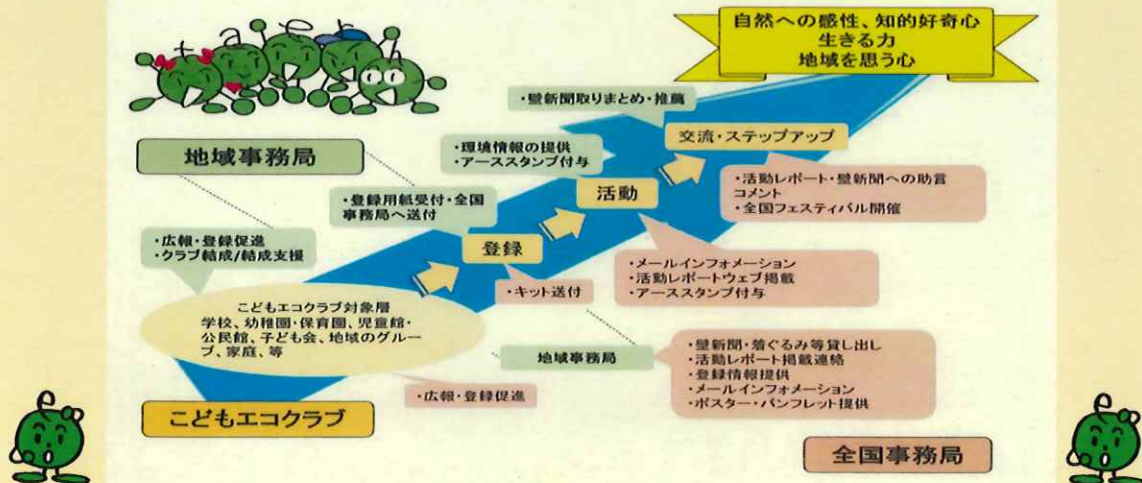
報告に対する温かい応援メッセージや、次の活動に役立つアドバイスがもらえます。

⑤活動を5回以上報告すると、アースレンジャーの認定証が届きます！

3年継続すると銀バッジ、6年継続すると金バッジがもらえます。



【ひとめでわかる!!】こどもエコクラブ事業のしくみ





県内子どもエコクラブの仲間たち



市区町村	クラブ名	メンバー数	サポーター数	活動年数	掲載ページ
水戸市	しんそう世界だいすきクラブ	18	3	21	—
	逆川子どもエコクラブ	124	76	19	3
	水戸内原イオンチアーズクラブ	26	3	17	4
日立市	豊浦小学校子どもエコクラブ	50	10	17	4
	子どもエコクラブ	2	1	6	—
土浦市	土浦イオンチアーズクラブ	17	7	9	5
古河市	古河一小エコクラブ	330	30	1	5
石岡市	芦穂小学校	2	2	2	—
常総市	AZUMA	2	1	6	—
笠間市	SG エコキッズ・ところけ	2	1	5	—
取手市	子どもエコクラブ	1	1	2	—
牛久市	岡と大地を歩く会	2	2	8	—
	のんはな	2	2	3	—
つくば市	たいちゃんエコクラブ	2	2	6	—
ひたちなか市	地球を守ろうクラブ	1	1	1	
常陸大宮市	イオンチアーズクラブ常陸大宮店	3	3	15	6
坂東市	七郷小エコレンジャー	178	17	9	6
大子町	だいが・池田保育園	84	14	7	7
八千代町	やちよエコクラブ	6	7	18	7

子どもエコクラブ登録数 19クラブ
令和6年2月時点

各クラブの活動報告は
次のページからです！



クラブ名
逆川こどもエコクラブ

〈サポーターの声〉クラブが設立された時、保育園児だった子供たちはユースとなって牽引してくれています。ホテル再生や千波湖ビオトープ造成などの「泥んこ活動」、環境フォーラムなどでの「発表」を経て、みんな素晴らしい子供たちに育っています。

〈活動紹介〉

●クラブユースが春休みに釧路湿原へ：4月
ユースラムサルジャパンの動画撮影部隊の一員として釧路湿原へ。彼らは高校生の際にラムサル登録地「廻沼ネイチャーガイド」を取得。全国のラムサル湿地の動画撮影に協力しています。

●民謡と三味線で日本一：4月
浅草公会堂で開催された津軽三味線全国コンクール(公財 日本民謡協会)においてクラブ5年生の小泉拓真くんが小学生高学年の部で優勝。昨年の民謡の部で日本一となったばかり。三味線も民謡と同じく1年半、自然活動と歴史文化を継承する天才。

●ホテルネットワーク mito 上半期活動：6月
am 逆川緑地、pm セブンの森の森の活動を行いました。1日の参加者数は183名。除草や絆づくり、水辺生き物観察会を行いました。子供たちの定期的な保全整備によって、水戸眞門様のホテルは、毎年数多く発生しています。





●つくば国際会議場で発表：7月
つくば国際会議場で開催されたエコ環境フォーラムにて発表しました。民謡と三味線日本一の小泉拓真くんの演奏とともに環境壁新聞の発表を行い、五嶋公一先生ともコラボしました。

●空閑工芸の丘&ホーリーホックエコ工作：7~8月
夏休みイベントとして空閑工芸の丘と水戸ホーリーホックホームゲームでエコ工作を行いました。工芸の丘ではクラフト工作、環境紙芝居、SDGs缶バッジの工作を行いました。

●水戸市環境フェア2023：8月
新しくできた市民会館で開催。姉妹団体の劇団シンデレラが来賓し、逆川こどもエコクラブとコラボステージを行いました。ステージショーでは納豆や干波湖を題材とした素晴らしい内容を披露。この地環境壁新聞や幼稚園のメンバーも頑張っていました。


●Kids SDGs Eco Cup Mito2023：8月
SDGs活動の表彰式を水戸プラザホテルで開催。「私が行っているエコな取り組み」を公表。103名のエントリーから優れた評価の26人を表彰。






●自然体験宿泊学習：10月
大型バス1台56人で出発。初日は、いわきアンモナイトセンターで化石発掘にチャレンジ。お昼は海竜の里で美味しいカレーと芋煮の味噌汁を食べて川釣り体験。ブラハヤ、ウグイ、オйкаワが次々釣れました。宿泊は「御前山青少年旅行村」。32人宿泊できる大きなロッジと6つのコテージに分かれてチェックイン。夕飯はお肉、野菜のバーベキュー、焼きそばやウインナーなど大人気でSDGs食べ残しなし。2日目、朝食はガス炊飯器で炊いた5キロの茨城県産新米コシヒカリと野菜いっぱい味噌汁、納豆、ふりかけ、卵焼きを食べて8時30分に出発。栃木県「なかがわ水遊園」で淡水魚のお勉強。午後は、なす風土記の丘資料館に移動し、匂玉づくりと火起こし体験を行いました。盛りだくさんでした。

●ホトケドジョウ&スナヤツメの保護活動：11月
逆川緑地アヤマ広場の木道工事の水抜きに伴う生物保護活動を行いました。アヤマ広場の湿地帯は、環境省レッドリスト絶滅危惧(EN)のホトケドジョウ、同じく絶滅危惧(Ⅱ)のスナヤツメが棲んでいます。こどもレスキュー隊が出動し、貴重種を採取して安全な場所へ移植しました。


水戸市逆川こどもエコクラブ エコロジカルアクション大作戦

●地域再生大賞エコフレンドリー賞をいただきました。
茨城新聞社の沼田安広社長様よりエコフレンドリー賞の表彰状と目録などがクラブメンバーに贈られました。地域再生大賞とは、地方新聞46紙と共同通信社が、地域に活気を与え魅力を高める活動に取り組み、成果を上げた団体を表彰しようと2010年度設けられ、新聞社より計50の団体を大賞候補として推薦。選考委員が書類審査、現地調査を経て受賞団体を決定します。受賞団体は新聞紙面で報道されます。この日は中学生から1歳児までの5人のメンバーが出席し、それぞれが力を入れているクラブの活動について報告しました。



●脱炭素チャレンジカップのアンバサダー
脱炭素チャレンジカップ2023が2月16日に東京大学で開催され、クラブサポーターの「リビング館ホンダ」が茨城で太陽光と蓄電、雨水利用を進めて脱炭素コーヒー園を完成させたプレゼンを行い、審査員特別賞を受賞しました。
チャレンジカップでは、クラブメンバーで中学2年生、テレビ朝日番組：危険生物博士ちゃんに任命されている浅利圭吾くんが「脱炭素チャレンジカップアンバサダー」に就任。会場で行われたパネルディスカッションでは、外来生物と上手に向き合うコツについて立派にプレゼンしました。



●こどもエコクラブ全国フェスティバル2023

渋谷のオリンピックセンターで開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル2023」に26人が参加してきました。
クラブのユースは、会場準備から全国事務局のスタッフとして前日から参加し、会場設営に活躍しました。フェスタ当日は、全国から集まったこどもエコクラブメンバーに「エコかるた」と「防災カルタ」の大会を開催しました。更に、愛知県代表で参加した姉妹団体の「劇団シンデレラ」と久々の再開を果たすこともできてサポーターからメンバーまで楽しく過ごせました。コロナ禍で3年間開催できなかった全国フェスティバルの開催は、小学校のクラブメンバーにとって経験を積んでもらえたことが収穫です。



●ホトケドジョウとスナヤツメの保護活動

逆川緑地アヤマ広場の木道工事の水抜きに伴うホトケドジョウとスナヤツメの保護活動を行いました。泥深い場所が多く、採取はかなり難航しましたが大きなスナヤツメが1尾採取できた他メダカも多数採取できました。区内で採取された生き物を水が保たれている湧水区域に移動させました。残念ながらホトケドジョウの生息確認ができませんでしたので、来春までに、複数回開催して確認をしていきます。



令和5年度活動報告

(市町村名 水戸市)

メンバー数 29人

サポーター数 3人

活動年数 18年

クラブ名
イオンスタイル水戸内原
イオンチアーズクラブ

(学校名)

※学校を拠点として活動している場合は記入してください。

〈サポーターの声〉

2023年度は、4月～1月まで11回の活動を行いました。活動テーマは、食と食品ロスをテーマに、工場見学、農業体験、売場探検などで、多くのチアーズメンバーに参加してもらいました。



〈活動紹介〉

1. 納豆工場見学・・・舟納豆の工場の方から、茨城の特産品である納豆の製造工程や原料の大豆のお話
製造過程で出る大豆くず、汚泥など家畜の飼料や肥料に活用され、食品ロスを出さない工夫も説明を
頂きました。
2. フードアルチザン活動の産地を見学・・・地域の食文化を守り育てるをイオンが地域の生産者の方と取り
取り組んでいる活動で、茨城では下館の完熟梨、笠間のくり、大子の常陸大黒がありますが、今回は
大子の常陸大黒のさや剥き体験とりんご狩りを行い、生産者の方からお話を伺うことができました。
3. 農業収穫体験・・・お店の近くの日本実践農業学園の農場で、たいこんやさつまいもの収穫体験を
行いました。長ネギの加工作業や家畜の黒毛和牛の見学もできました。
4. 売場探検・・・イオンが取り組んでいる食品ロスの削減について、売場で商品を確認しながら探検した。
5. 12月～1月で、1年間の活動を振り返り、壁新聞にまとめました。



令和5年度活動報告

(市町村名 日立市)

会員数 464人

サポーター数 40人

活動年数 16年

クラブ名 日立市立豊浦小学校
豊浦小学校子どもエコクラブ

〈サポーターの声〉

豊浦小学校は日立市の北部に位置し、海・川・山など豊かな自然環境に恵まれた学校です。「ふるさと豊浦」を大切に守っていくために、全校児童464名が学年ごとに生活科や総合的な活動の時間の中で、環境を考える活動を行っています。豊浦町づくり推進委員や保護者、教職員が活動を支援し充実した活動になりました。

★2年生 「反田川」探検



◆2年生は、豊浦地区を流れる「反田川探検」に行きました。魚やドジョウ・ザリガニなどのたくさんの生き物を捕まえました。この日を待ちわびていた子供たちの元気な声が岸辺に響き渡りました。一部を学校に持ち帰り、学級で観察をしました。

★花や野菜の育成作業



◆委員会活動でプランターや花壇の整備を行いました。ピオラなどの苗植えを行い緑化の推進に努めました。水やりなどの世話を通して、子供たちの植物の成長を喜んだり、開花を心まことにしたりする姿が見られました。また、学年用花壇（豊咲園）で使用する土や肥料を購入し、各学年で野菜の種や苗を植えて育てました。今年度、2年生は、落花生の栽培に挑戦しました。

★校内のあちこちで「水辺の生き物の観察」



◆豊浦小学校の廊下や教室には、たくさんの生き物がいます。5年生はきれいな水でないといと住めないウーパールーパーを飼育しています。昇降口やテラスでは金魚やコイを飼っています。子供たちは、育て方を調べ、熱心に世話をしています。

令和5年度活動報告 (土浦市) メンバー数 20 人 サポーター数 5 人 活動年数 13 年

クラブ名 **土浦イオンチアーズクラブ**
(学校名)
※学校を拠点として活動している場合は記入してください。

〈サポーターの声〉
イオンチアーズクラブは、店舗近隣に住む小・中学生がイオンの従業員と一緒に「環境」について楽しく学ぶクラブです。店舗や店舗周辺、時には海や森、施設見学などにも出かけます。

【活動紹介】

5月 開始式 牛久農場体験(とうもろこしの草取り・枝豆の種まき)
6月 牛久農場体験(さつまいもの定植・枝豆の間引き体験)
7月 牛久農場体験(とうもろこしの収穫・小松菜の種まき)
8月 24時間テレビ募金活動
9月 トップパルコ連携「食品ロス削減」リモートプログラム・お店探検・牛久農場(小松菜の収穫)
10月 ハートフルボランティア in 霞ヶ浦 牛久農場体験(さつまいもの収穫)
1月・2月 壁新聞作成

●2023年度は「食と食品ロス」をテーマに活動しました。

いろいろな活動の中でも、農場体験を通して、野菜を作る大変さ、食の大切さを学びました。5月から、枝豆の種まきやさつまいも・すいかの定植体験。草取りなど、お世話をしながら、7月にはとうもろこし、10月にはさつまいもの収穫体験。自分たちで作ったお野菜はとても美味しく感じ、お店に並ばない小さな野菜でも美味しく食べられることを学びました。

霞ヶ浦の清掃、「ハートフルボランティア in 霞ヶ浦」に親子で参加し、霞ヶ浦湖畔のゴミ拾いをしました。いろんな団体と一緒に活動し、全部で468キログラムのゴミを回収しました。自分たちが拾ったゴミは、ペットボトルや缶が多かったです。たくさん拾って、きれいになったから気持ちがいい。ごみを捨てたら地球がよごれちゃう。などの感想がありました。



令和5年度活動報告 (市町村名 古河市) メンバー数 321 人 サポーター数 2 人 活動年数 1 年

クラブ名 **一小エコPROJECT**
(学校名 古河市立古河第一小学校)
※学校を拠点として活動している場合は記入してください。

〈サポーターの声〉
今年度、本校では環境部の教員二人を中心に、エコPROJECTに取り組みました。その一環として、子どもエコクラブに登録させていただきました。活動はまだまだかもしませんが、これからもエコに対する意識を高めていきたいと思ひます。

【活動紹介】

一小エコPROJECT

ホームミッション&スクールミッション

家庭で取り組むミッション！
多くの児童が意欲的に取り組んでくれました。

学校で取り組むミッション！
①ゴミを拾って登校
②ストローレス(給食の牛乳)
③ペットボトルキャップ&空き缶回収

環境教育としてスタートした「一小エコPROJECT」。現在では多くの児童が意欲的に取り組んでいます。昨年度から始まっていた「ストローレス」の取り組みも高学年から始まり、今では一年生まで多くの児童がストローを使わずに牛乳を飲んでいきます。今後はこの活動を継続していくとともに、更に多くの児童が取り組める方法を考えたいと思ひます。SDGsの意識を高め、未来をよりよいものにできる資質を、こども達には育んでもらいたいです。

ホームミッション! 年間名前()
葉のりと協力して取り組みよう!

番号	ミッション	達成
4	1か月の葉のりを回収する	✓
5	マイバックで買い物をする	✓
6	ぼろぼろになったものをリサイクルする	✓
7	エコマークがついている商品を選ぶ	✓
8	おかけする時に水とゴミを捨てる	✓
9	家の近くのごみひろいをやる	✓
10	全員のあまみもで回収	✓
11	手洗い・はみがきまで続ける	✓
12	使っていないコンセントは抜く	✓
13	テレビ・タブレットの電源を切る	✓

令和5年度活動報告 (市町村名:常陸大宮市) メンバー数 3人 サポーター数 2人 活動年数 年

<p>クラブ名 イオンチアーズクラブ常陸大宮店</p> <p>(学校名)</p> <p>※学校を拠点として活動している場合は記入してください。</p>	<p>〈サポーターの声〉</p> <p>2023年は「食品ロスについて学ぶ」でした。当店の食品課長から原因を聞き、私たちが対策を考えました。身近な問題であったので「食」の大切さを学びました。</p>
--	---

〈活動紹介〉

6月:食品ロスについて勉強。8月:24HTVの募金活動。9月:6月に学んだこと(食品の値下げ、廃棄等)を店内で実施。
10月:さつま芋の収穫。11月:大黒豆の収穫とりんご狩り。



令和5年度活動報告 (坂東市) メンバー数 178人 サポーター数 30人 活動年数 17年

<p>クラブ名 エコレンジャーNanago! 2.3.4.5.6!</p> <p>(学校名 坂東市立七郷小学校)</p>	<p>私たちの学校は、みどりの森に囲まれた菅生沼に近い、自然豊かな地域にあります。校舎裏には里山があり、歩いていける距離には「ミュージアムパーク茨城県自然博物館」があります。博物館には年に3、4回、学校から企画展や学習プログラムに参加するために総合的な学習の時間を使って訪れることができます。学芸員の先生やボランティアさんに教えてもらいながら昆虫や野鳥や樹木のことを知ることができ、自然科学への興味関心、探究心を高めています。</p>
---	---

<p>① 里山現地調査(6年生)</p> <p>総合的な学習の時間に「私たちの将来とSDGs」をテーマに身近な里山を観察した。里山の荒れた様子をタブレット端末などで撮影し、気付いたことを記録した。キョウチャートレイと終した遊歩道の跡や樹木を整備したいという意欲が高まった。</p>	<p>④ 博学連携プログラム(全学年)</p> <p>学区内にあるミュージアムパーク茨城県自然博物館(以下、博物館と表す)とは開館以来29年にわたり、博学連携を続けている。各学年、年に2-4回訪れて学芸員やボランティアスタッフの協力で学習や体験活動を行い自然への理解を深めている。</p> <p>1年生 寄り道でお面づくり</p> <p>2年生 企画展見学</p>	<p>⑥ 博物館自然(野鳥)観察(4年生)</p> <p>総合的な学習の時間に「野鳥のスペシャリストになろう」をテーマに、博物館において学芸員やボランティアの支援を受けながら昆虫採集や自然観察を行っている。</p>
<p>② 里山改善のための話し合い(6年生)</p> <p>「私たちの将来とSDGs」をテーマとして里山を改善しようという気持ちがあり、調べたことをもとに自然環境と人間社会の関わり方について話し合った。遊歩道を整備するために自分たちに何ができるか、どんな道具が必要かなどの意見を交換して、次の活動への見通しをもつことができた。</p>	<p>③ 学芸員から自然観察を学ぶ</p> <p>⑤ 博物館自然(昆虫)観察(3年生)</p> <p>総合的な学習の時間に「虫の世界をたんけんしよう」をテーマに、博物館において学芸員やボランティアの支援を受けながら昆虫採集や自然観察を行っている。</p> <p>3年生 学芸員から自然観察を学ぶ</p> <p>4年生 博物館のボランティアさんから学ぶ</p> <p>5年生 流れる水のぼたらし</p> <p>6年生 土地のつくりと変化</p>	<p>⑦ 野鳥の巣箱づくり(4年生)</p> <p>調査工作に打ちちやのこりの練習に、野鳥のための巣箱づくりを行った。巣箱は、里山や校庭の樹木に設置して、野鳥が入るのを観察している。</p>
<p>③ 里山について講話(6年生)</p> <p>里山の手入れをしていた里山会OBの方をゲストティーチャーに招き、人の暮らしと里山の歴史や樹木の種類についてレクチャーしていただいた。自然を大切に守ることが、持続可能な人の暮らしにつながっていることを実感した。</p>	<p>⑧ 里山について発表会(6年生)</p> <p>総合的な学習の時間に里山について調べたことや考えたことをまとめて、6年生が5年生や里山会OBの皆さんへ伝える発表会を行った。</p>	

令和5年度活動報告

(市町村名 大子町)

メンバー数 84 人

サポーター数 14 人

活動年数 8 年

クラブ名 **だいご・池田保育園**
(学校名)
※学校を拠点として活動している場合は記入してください。

〈サポーターの声〉
野菜を育てたり、散歩に行って木の实を拾ったりと、近隣の自然環境をフル活用して活動を行っています。廃材を使っての制作も上手です。2月に行うお店屋さんごっこに向け、空き箱や包装資材を使い、素敵な商品が作られています。

〈活動紹介〉



ペットボトル布でブックク。oO
シャボン遊びしたよ



じゃが芋 収穫しましたよ



松ぼっくりと木の実のツリーです



牛乳パックや段ボールから、素敵な作品ができるんですよ(^^)v



枝豆が実りました
茹でて美味しくいただきました



まゆ玉飾りを作りました



令和5年度活動報告

(市町村名 八千代町)

メンバー数 9 人

サポーター数 6 人

活動年数 18 年

クラブ名 **やちよエコクラブ**
(学校名)
※学校を拠点として活動している場合は記入してください。

〈サポーターの声〉今年度は、年間を通してスターウォッチングを実施し、ウインターサイエンスを夜間に開催することができた。好評を得た。活動に合った環境をマッチングさせながらチャレンジを継続。

〈活動紹介〉

年間を通してスターウォッチングを開催



9月 <笑顔の花咲くまち>を願って苗や球根を植えました



10月 防災マップにチャレンジ



7月 夏休み自由研究支援



8月 サマーサイエンス



12月 *みんなが主役の作品展* (集約ない集まりイベント) de 発表



ウインターサイエンス(親子参加で実施 17:00-19:00)



★ 茨城新聞での紹介 ★

逆川こどもエコクラブの様子が『環境特集 2023』のページに掲載されました。



つなげよう
地球の未来

環境特集 2023

INDEX

- 14 ▶ 楽しく学び実践する 逆川こどもエコクラブ 若工本生活協賛会より いばらぎエコスタイル
- 15 ▶ ハイブリッド型の環境学習 エコカー 教室にも楽しい環境教育 エコドライブ
- 16 ▶ 食品廃棄物減へ、食料と消費資源を循環させるへ リサイクルの活用も推進 茨城県が推進する 環境の未来食品等削減会へ、フードドライブ対策
- 17 ▶ 環境問題解決のヒント 茨城県へ、子どもが活躍する 環境問題解決のヒント チャンスショップ入賞

近年、豪雨や猛暑などの気候変動による自然災害が増え、地球温暖化への危機感が高まっています。今後は、農作物や生物多様性、経済活動などへの影響はさらに大きくなる。原因となる二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスを削減し、地球温暖化を抑制することが必要です。そのため、節電や節水の減量、エコドライブやエコカーなど、日々の生活の中での取り組みが求められています。逆川こどもエコクラブは、子どもたちが主体的に環境問題に取り組むための場を提供しています。

茨城新聞 2023年6月2日 掲載

楽しく学ぶ 意識育み実践

出前講座で集めたペットボトルのリサイクル工作を指導する小島さん(右)。地球温暖化防止の啓発活動を行う。

2023年の「こどもエコクラブ」全国フェスティバル開催の機会に、代表として発表し、表彰も受けた。発表の準備を振り返り、活動の思い出を振り返る。

12年からの「千波湖市型」オトーニ通りは、毎月6月、水環境と生物多様性の向上のため、湖岸に緑地を造る。水たまりの環境を維持するため、排水が流れた水生植物を運び、当日の湖岸に植える。

12年からの「千波湖市型」オトーニ通りは、毎月6月、水環境と生物多様性の向上のため、湖岸に緑地を造る。水たまりの環境を維持するため、排水が流れた水生植物を運び、当日の湖岸に植える。

地球温暖化や生物多様性

2023年の「こどもエコクラブ」全国フェスティバル開催の機会に、代表として発表し、表彰も受けた。発表の準備を振り返り、活動の思い出を振り返る。

12年からの「千波湖市型」オトーニ通りは、毎月6月、水環境と生物多様性の向上のため、湖岸に緑地を造る。水たまりの環境を維持するため、排水が流れた水生植物を運び、当日の湖岸に植える。

逆川こどもエコクラブ

代表 小島 幸子さん

自主性尊重
こどもエコクラブは、子どもたちが主体的に環境問題に取り組むための場を提供しています。活動の思い出を振り返る。

ホタル再生
水たまりの環境を維持するため、排水が流れた水生植物を運び、当日の湖岸に植える。

地道な活動評価
12年からの「千波湖市型」オトーニ通りは、毎月6月、水環境と生物多様性の向上のため、湖岸に緑地を造る。水たまりの環境を維持するため、排水が流れた水生植物を運び、当日の湖岸に植える。

茨城新聞 2023年6月2日 掲載

☆2022 全国大会出場作品☆

逆川エコクラブ 様

我が家のプラゴミ実態！（1カ月しらべ）



こどもエコクラブ全国フェスティバルは、

2023年3月26日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で「こどもエコクラブ全国フェスティバル2023」を4年ぶりに開催しました。

今年はオンラインで参加してくれたクラブもいたため、こどもエコクラブ史上初のハイブリット開催となりました。

☆壁新聞道場☆師範から一言☆

ごみ袋の中に、プラゴミの割合を示すなど、とても分かりやすいデザインだと思います。プラゴミは、食品関係のものに多いことが、今回の壁新聞で明らかにされました。環境について考えるときの資料としても、活用できそうな話題といえそうです。それにしても、プラゴミのもととなる物は、多様ですね。あらゆる物の包装として、プラスチックが使用されることが分かります。世界中で使われるプラスチックの量もすごいと思います。どのくらいの量なのか、想像が付きませんね。

さて、プラスチックの包装が、ゴミになる場合と資源になる場合があります。その分けられ目は何なのかを調べていくと、プラゴミによる海洋汚染を対策する方法が見えてきそうです。プラスチックが完全にリサイクルされ、資源が循環するような仕組みづくりを、考えていきたいですね。

応募作品



① 本で楽しく知れるよ！ SDGs！



② 水辺のすこやかしらべ！



③ 人と自然が共生する 里山



④ 未来へつなぐ トキ保全の取組み



⑤ イモムシとケムシ



⑥ 我が家のプラゴミ実態！（1カ月しらべ）



⑦ 水生生物を調べよう！ Part4



⑧ 気候変動による問題



2024壁新聞コンクール応募作品



【茨城県応募数】

◎応募クラブ 1 チーム

逆川こどもエコクラブ 様

☆「全国エコ活コンクール」の目的☆

子どもたち自身が感じたことや気がついたことをまとめて活動を振り返ることで、次のステップにつながる様々な力を育み、新たなチャレンジへの発見を得る機会とするため。

こどもエコクラブ全国事務局

☆壁新聞☆



すごいぞ! ひよどり!!
巣作りから巣立ちまでの観察



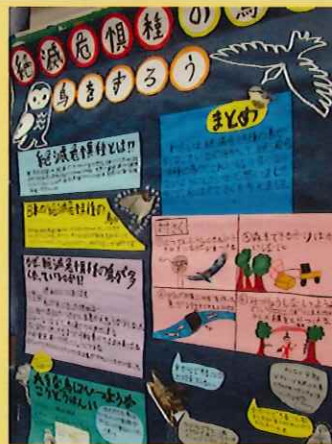
みぢかな野生動物



NEWS! 茨城じまん
涸沼とハゼ 豊かな自然を調査



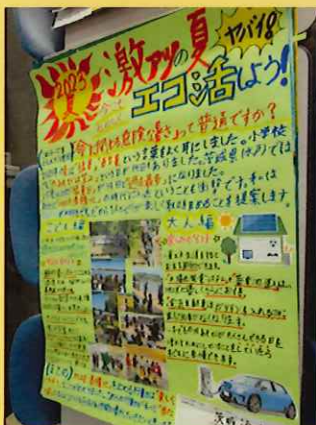
悪いのはプラスチックじゃない



絶滅危惧種の鳥! 鳥を守ろう



プラごみ ダイエット 大作戦!!



2023 夏激アツの夏
今こそ楽しくエコ活しよう!



水戸の鳥を知ろう バード新聞



動物福祉新聞
(アニマルウエルフェアを知ろう)



2024絵日記コンクール応募作品



【茨城県応募数】

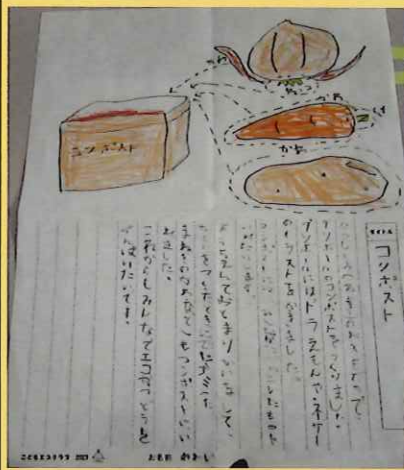
◎応募クラブ 1 チーム

逆川こどもエコクラブ 様

☆「全国エコ活コンクール」の目的☆

子どもたち自身が感じたことや気がついたことをまとめて活動を振り返ることで、次のステップにつながる様々な力を育み、新たなチャレンジへの発見を得る機会とするため。

こどもエコクラブ全国事務局



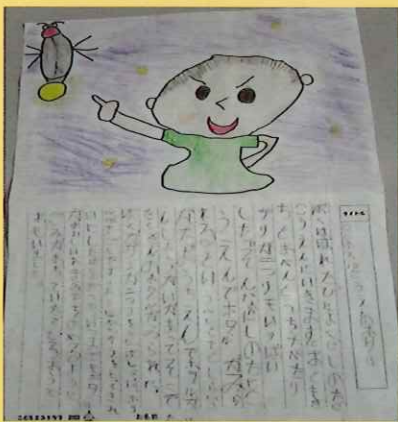
『コンポスト』
黒澤 葵



『おほしさま』
久光 稀子



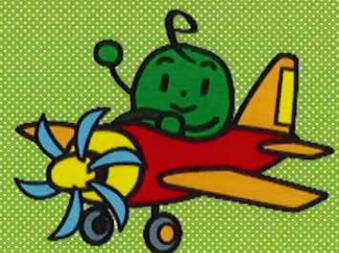
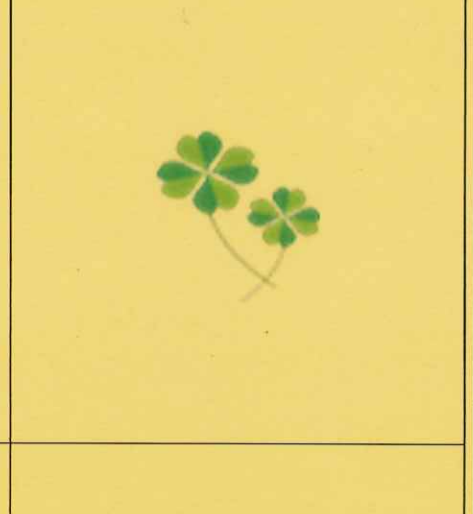
『ダンボールコンポスト』
吉村 美咲



『にしのたにこうえんのホタル』
海津 泰志



『ペットボトル』
青木 湊





★2024 全国大会出場★
 プラごみ ダイエット 大作戦!!
 逆川こどもエコクラブ 様



【活動内容】

水戸市のシンボル千波湖と、その脇を流れる桜川・逆川流域に広がる自然豊かな緑地公園を中心に環境学習を展開しています。サケの遡上に伴う調査活動、ごみローラー作戦、水生生物・昆虫・水質検査などの環境学習会、行政と地域の企業も協働して開催されるピオトープ作り、環境フォーラム。エコプロダクツやこどもエコクラブ全国フェスタ等の参加を通じて環境を守っていく大切さを学んでいます。

【子どもたちからの全国の仲間へメッセージ】

生態系を守るためにプラごみを減らすことが大事と言われていますが、自分の家や日本全体でどのくらいのプラごみが出ているのか調べてみたいと思ったのがきっかけです。ごみの重さを1個1個測るのは大変でしたが、測ったデータから日常の中でどのようにごみを減らせば効果的か考えることができたのが良かったです。また、壁新聞も楽しく作りたいと思い「プラ丸」がごみをダイエットするというストーリーを考えました。いろいろなアイデアをだして楽しく作ることができました。

【サポーターからのメッセージ】

今回は、息子が主導して家族でプラごみの問題について話し合い、テーマを決めました。1カ月間プラごみの量を測定して分析することにしましたが、トレーや納豆パックの汚れ落しから分析結果の考察まで、本人が率先して取り組みました。データの取得、分析を通じてPDCAのサイクルを体感できたことも大きな収穫であったと思います。また、楽しく取り組むため、独自のキャラクターを考案するなど、進め方にも成長が見られました。環境保全の取り組みは歴史的には始まったばかりで終わりが見えません。小泉元環境大臣が以前に発言されたように、様々な工夫によって楽しく魅力的に活動を続けていければと思います。

【茨城県事務局からの応援メッセージ】

継続してプラごみ問題と向き合い独自キャラクターを生み出しストーリーを考えこの問題に楽しく取り組むための工夫をして見やすく説得力のある素晴らしい作品となっております。

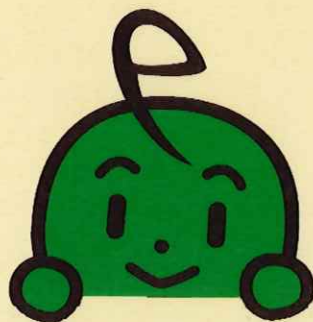


こどもエコクラブのめざすもの

全国事務局

こどもエコクラブ事業は、子どもたちの育成だけでなく、全国各地にいる多くのクラブが企業や自治体との連携・協働のステークホルダーとなることをめざしています。全国事務局では、地域事務局として登録している自治体、事業を支援する企業・団体とともに、子どもたちの主体性や自主性を尊重しながら、それぞれのステージに応じた個々のクラブへのサポートなどを行っています。





こどもエコクラブ
イメージキャラクター「エコまる」

こどもエコクラブで活動するには？

詳しくは、茨城県県民生活環境部環境政策課又は
こどもエコクラブ全国事務局までお問い合わせ下さい。

茨城県県民生活環境部環境政策課 内
【こどもエコクラブ茨城県事務局】

<https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kansei/kankyo/kodomo-ecoclub.html>

〒310-855 水戸市笠原町 978 番 6

TEL : 029-301-2933

FAX : 029-301-2949

E-mail : kansei1@pref.ibaraki.lg.jp

公益財団法人日本環境協会
【こどもエコクラブ全国事務局】

<http://www.j-ecoclub.jp/>

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-10-5 TMM ビル 5 階

TEL:03-5829-6359

FAX:03-5829-6190

E-mail : j-ecoclub@jeas.or.jp